

科目名	建築設計製図 I						
科目名(英)	ARCHITECTURAL DESIGN DRAWING I						
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	田川 裕也		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験	建築施工現場事務所にて 施工図作成業務に従事		
対象学科・学年	建築学科(夜間) 1年						
授業概要	本授業では、製図道具の使い方、線の描き方など製図の書き方を習得し、木造建築物の一般図の種類と表現方法・内容理解を目指す。						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
		○	○			製図道具(平行定規、勾配定規、三角スケール、円定規)を問題なく使用できる	
	○	○				木造建築の一般図の種類と表現方法・内容が説明できる。	
		○	○			製図の基本に則して木造建築物の配置図及び平面図を作図することができる。	
		○	○			製図の基本に則して木造建築物の断面図及び立面図を作図することができる。	
	○	○				製図の基本に則して木造建築物の矩計図を作図することができる。	
テキスト・教材 参考図書	学芸出版社 住まいの建築設計製図						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1・2	製図の基本(建築を考える)			授業後、繰返しの練習を推奨する。		
	3・4	製図の基本(スケール)			授業後、繰返しの練習を推奨する。		
	5・6	製図の基本(点)			授業後、繰返しの練習を推奨する。		
	7・8	製図の基本(文字)			授業後、繰返しの練習を推奨する。		
	9・10	図面の表現(図面の描き方)			課題は次の授業までに終わらせること。		
	11・12	図面の表現(平面図)			課題は次の授業までに終わらせること。		
	13・14	図面の表現(立面図)			課題は次の授業までに終わらせること。		
	15・16	図面の表現(展開図)			課題は次の授業までに終わらせること。		
	17・18	図面の表現(配置図)			課題は次の授業までに終わらせること。		
	19・20	木造平屋建て「住宅設計図」模写			課題は次の授業までに終わらせること。		
	21・22	配置図、平面図			課題は次の授業までに終わらせること。		
	23・24	断面図			課題は次の授業までに終わらせること。		
	25・26	立面図			課題は次の授業までに終わらせること。		
27・28	基礎伏図、床伏図			課題は次の授業までに終わらせること。			
29・30	小屋伏図			課題は次の授業までに終わらせること。			
評価方法	(1)課題の提出 (2)課題の発表 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	課題	○	○				50%
	発表・作品	○	○				50%
履修上の注意	出席回数が授業回数の2/3に満たない場合は、提出状況は関係なく単位を与えない						

科目名	建築CAD設計製図演習 I						
科目名(英)	Computer Aided Architectural Design I						
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	田川 裕也		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験	建築施工現場事務所にて 施工図作成業務に従事		
対象学科・学年	建築学科(夜間) 1年						
授業概要	AutoCADの基本操作方法を覚え、木造住宅、鉄筋コンクリート造事務所ビルなどの建築図面が描けるようになる。						
授業形式	講義:	△	演習:	○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
		○	○			AutoCADの基本操作ができる	
		○	○			AutoCADを使って建物平面図の作図ができる	
		○	○			AutoCADを使って建物立面図の作図ができる	
テキスト・教材 参考図書	オリジナルプリント						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1・2	AutoCADの基本操作・コマンドの解説、コマンド操作の練習 (座標入力、直交モード、極トラッキング、OSNAP、線分、削除、部分削除)				コマンド操作の練習	
	3・4	AutoCADの基本操作・コマンドの解説、コマンド操作の練習 (円、円弧、オフセット、面取り、フィレット、画層プロパティ管理、画層)					
	5・6	AutoCADの基本操作・コマンドの解説、コマンド操作の練習 (ポリライン、ポリゴン、長方形、分解、複写、移動、回転、鏡像、配列複写)					
	7・8	AutoCADの基本操作・コマンドの解説、コマンド操作の練習 (ストレッチ、尺度変更、トリム、延長、長さ変更)					
	9・10	建築図面の作図・木造住宅の平面図① (作図準備、通り芯、柱・壁、開口部の作図)				授業でやり残した課題は、次回の授業までに 終わらせておくこと	
	11・12	建築図面の作図・木造住宅の平面図② (建具、階段、設備機器、家具の作図)					
	13・14	建築図面の作図・木造住宅の平面図③ (外構、寸法・文字記入)					
	15・16	建築図面の作図・木造住宅の平面図④ (印刷の方法)					
	17・18	建築図面の作図・木造住宅の平面図④ (平面図の仕上げ)					
	19・20	建築図面の作図・木造住宅の断面図① (作図準備、基準線の作図)					
	21・22	建築図面の作図・木造住宅の断面図② (屋根、壁、天井、建具の作図)					
	23・24	建築図面の作図・木造住宅の断面図③ (断面図の仕上げ)					
	25・26	建築図面の作図・木造住宅の立面図① (作図準備、基準線の作図)					
	27・28	建築図面の作図・木造住宅の立面図② (屋根、壁、建具の作図)					
29・30	建築図面の作図・木造住宅の立面図③ (立面図の仕上げ)						
評価方法	(1)各課題を期限を定めて提出させ、その出来具合に応じて評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	課題提出		○	○			100%
履修上の注意	出席回数が授業回数の2/3に満たない場合は、提出状況は関係なく単位を与えない						

科目名	建築CAD設計製図演習Ⅲ						
科目名(英)	Computer Aided Architectural Design Ⅲ						
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	大坪 智		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験	デザイン事務所にてCG、パース作成に従事		
対象学科・学年	建築学科(夜間) 1年						
授業概要	作品をつくるにあたって、伝わりやすく見やすい資料をデザインできる必要がある Photoshop・Illustratorの基本操作を理解し、業界における重点を学ぶ 各ツールの役割・動作・得られる結果について理解し、必要な場面で適切に使用することができるようになる						
授業形式	講義:	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				Illustratorの機能について説明することができる	
		○				Illustratorによる適切なレイアウト処理ができ、プレゼンテーションを作成することができる	
		○				Photoshopによる画像補正、修正処理ができる	
		○				IllustratorとCAD・PDFの連携を意識した処理ができる	
テキスト・教材 参考図書	プリント資料						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1・2	導入授業 Photoshopで合成してみる Photoshop 建築物の写真を切り抜いて空と樹木を合成				Illustrator・Photoshopのインストール	
	3・4	Illustrator ベジェ曲線 ツール・実践 写真をペンツールで切り抜きレイアウト					
	5・6	IllustratorとPhotoshopの基本 ベクトルとラスターの理解 図形や線を描く					
	7・8	オブジェクトの選択と基本的な変形 色と透明度の設定 CMYK版について					
	9・10	オブジェクトの編集と合成 線と文字の設定					
	11・12	紙面レイアウト演習1 文字の役割、段組の活用					
	13・14	PhotoshopとIllustratorの連携 画像の配置とその機能特性					
	15・16	Photoshop練習問題1					
	17・18	Photoshop練習問題2					
	19・20	CAD図面・PDFを用いてIllustratorでレイアウト練習1					
	21・22	CAD図面・PDFを用いてIllustratorでレイアウト練習2					
	23・24	実践練習 レイアウト作品制作1					
	25・26	実践練習 レイアウト作品制作2					
	27・28	実践練習 レイアウト作品制作3					
29・30	実践練習 レイアウト作品制作4						
評価方法	練習問題を小テストとして評価 3種実施、その提出により評価 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	作品提出	◎	○				100%
履修上の注意	出席回数が授業回数の2/3に満たない場合は、提出状況は関係なく単位を与えない						

科目名	建築計画 I						
科目名(英)	Architectural planning and design I						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	河嶋 正樹		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験	建築設計事務所にて 建築設計(意匠)に従事		
対象学科・学年	建築学科(夜間) 1年						
授業概要	主に建築計画の基本となる住宅について建築計画の手法を学び、個人またはグループに課題を出題し、調査や発表・講評等も行う。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				建築計画の目的と役割を説明できる	
	○	○				住様式と住宅の変化について説明できる	
	○	○				戸建て住宅の建築計画を立てることができる	
	○	○				集合住宅の建築計画を立てることができる	
		○	○				自分が立てた建築計画をプレゼンテーションすることができる
テキスト・教材 参考図書	初学者の建築講座 建築計画(改訂版)、カラー版図説 建築の歴史 西洋・日本・近代						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	自己紹介(教員・学生)、シラバス説明、概要					
	2	建築計画とは、住様式と住宅の変化				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	3	戸建て住宅 配置計画・平面の類型				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	4	戸建て住宅 各室の計画1				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	5	戸建て住宅 各室の計画2				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	6	戸建て住宅 各室の計画3・規模計画				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	7	戸建て住宅の計画1				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	8	戸建て住宅の計画2				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	9	中間テスト				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	10	集合住宅 団地計画				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと	
	11	集合住宅 集合住宅の種類1				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	12	集合住宅 集合住宅の種類2				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	13	細部計画1				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	14	細部計画2				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
15	細部計画3				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと		
評価方法	(1)授業の中で小テストを5回実施する。(2)レポートを数回実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)A(80点以上)B(70点以上)C(60点以上)D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	○				60%
	小テスト	○	○				20%
宿題・レポート	○	○				20%	
履修上の注意	出席回数が授業回数の2/3に満たない場合は、単位を与えない						

科目名	構造力学 I						
科目名(英)	Structural Mechanics I						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	黒木 文雄		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験	建築建築設計事務所にて構造設計を担当、 専門学校にて常勤講師として勤務		
対象学科・学年	建築学科(夜間) 1年						
授業概要	静定構造物(梁、ラーメン、トラス)の反力計算、応力計算の手法を学ぶ						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				力のモーメントが求められる。	
	○	○				力の合成と分解が出来る。	
	○	○				静定構造物の反力が求められる。	
	○	○				静定構造物(単純梁)の応力が求められる。	
テキスト・教材 参考図書	建築構造設計(実教出版)、オリジナルプリント						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	構造力学の概要、力の表し方、力のモーメント				予習 復習	
	2	1点に作用する力の合成と分解(図式、算式)				予習 復習	
	3	平行な力の合成(算式)				予習 復習	
	4	平行な力の分解(算式)				予習 復習	
	5	力の釣り合い				予習 復習 質疑応答	
	6	荷重、支点と反力				予習 復習	
	7	単純梁の反力(1)				予習 復習	
	8	単純梁の反力(2)				予習 復習	
	9	片持ち梁の反力				予習 復習 質疑応答	
	10	単純ラーメンの反力				予習 復習	
	11	応力について、応力の求め方、応力図の描き方				予習 復習	
	12	単純梁の応力(集中荷重が作用する場合)				予習 復習	
	13	単純梁の応力(等分布荷重が作用する場合)				予習 復習	
	14	単純梁の応力(モーメント荷重が作用する場合)				予習 復習 質疑応答	
15	まとめ				期末試験対策		
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。※60点以上取得すること (2)授業の中で小テストを3回実施する。 (3)宿題・レポートを数回実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	◎				80%
	小テスト	○	○				10%
宿題・レポート	○	○				10%	
履修上の注意	出席回数が授業回数の2/3に満たない場合は、単位を与えない						

科目名	建築施工 I						
科目名(英)	Building Construction I						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	田川 裕也		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験	建築施工現場事務所にて 施工図作成業務に従事		
対象学科・学年	建築学科(夜間) 1年						
授業概要	講義を通して建築施工の基礎知識の修得を目指す						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				建築施工の目的と概略を説明できる	
	○	○				施工計画の概要と留意事項を説明できる	
	○	○				施工における工事の内容と留意事項を説明できる	
	○	○				施工における必要な検査事項と活用方法を工事の段階ごとに説明できる	
テキスト・教材 参考図書	建築施工(実教出版)、図説 建築資料集						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	建築施工の目的と特色					
	2	請負業者の決定方法と契約時の注意事項				事前学習	
	3	施工計画 概説と留意事項の解説				事前学習	
	4	地盤調査 地盤調査の種類と調査結果の活用方法				事前学習	
	5	仮設工事 概説				事前学習	
	6	土工事 概説				事前学習	
	7	地業・基礎工事 杭地業と基礎の種類				事前学習	
	8	鉄筋工事 I 材料と各種構造、加工・組立・検査について				事前学習	
	9	鉄筋工事 II 着工前の検査事項、継ぎ手、配筋について				事前学習	
	10	型枠工事 I 各構成部材について				事前学習	
	11	型枠工事 II 施工前の検査事項、加工時・組立時の留意事項				事前学習	
	12	コンクリート工事 I コンクリートの種類、品質、基準強度				事前学習	
	13	コンクリート工事 II 施工管理のポイント				事前学習	
	14	鉄骨工事 I 鉄骨造の特徴、内容と留意点				事前学習	
15	まとめ				期末試験準備		
評価方法	期末試験、レポート課題、小テストの結果によって評価する 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	期末試験・レポート課題	○	○				80%
	小テスト	○	○				20%
履修上の注意	出席回数が授業回数の2/3に満たない場合は、単位を与えない。						

科目名	建築法規 I						
科目名(英)	Architecture I						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	竹下 幸栄		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験	建築設計事務所にて建築設計(意匠)に従事		
対象学科・学年	建築学科(夜間) 1年						
授業概要	2級建築士資格試験の問題演習を通して、建築法規に関するより専門的な知識習得を目指す。また、学習を通して建築に関する基本的な考え方や建築の在り方についても理解を深める。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				建築に関する法令用語の定義を説明することができる。	
	○	○				順守すべき法規事項を説明することができる。	
	○	○				法令順守に沿ったプランニングができる。	
テキスト・教材参考図書	・総合資格学院編 建築関係法令集 法令編						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	用語の定義 (①法規の体系、法令の形式②建築基準法の目的、全体構成③法令用語の原則、定義)				事前連絡の該当範囲を事前に一読しておくこと。	
	2	確認申請・建築手続Ⅰ (①建築物の建築等の確認申請、②仮設建築物の確認申請)				次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。	
	3	確認申請・建築手続Ⅱ (①建築物の用途変更による確認申請、②工作物の確認申請)				次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。	
	4	確認申請・建築手続Ⅲ (①構造計算適合性判定制度、②建築物に関する完了検査・中間検査)				次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。	
	5	面積の算定 (①敷地面積、②建築面積、③延べ面積)				次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。	
	6	高さ等の算定 (①建築物の高さ、②階高)				次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。	
	7	一般構造Ⅰ (①居室の採光)				次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。	
	8	一般構造Ⅱ (①居室の換気、②火気使用室の換気設備)				次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。	
	9	一般構造Ⅲ (①階段・スロープ、②床高、③天井高さ)				次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。	
	10	耐火・防火Ⅰ (①耐火・防火等の性能、②耐火建築物等としなければならない特殊建築物)				次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。	
	11	耐火・防火Ⅱ (①法第27条、②耐火建築物等としなければならない特殊建築物)				次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。	
	12	防火区画Ⅰ (①面積区画、②たて穴区画)				次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。	
	13	防火区画Ⅱ (①異種用途区画、②防火区画の構造、③防火壁等)				次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。	
	14	避難施設Ⅰ (①各種避難施設の設置及び構造)				次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。	
	15	避難施設Ⅱ (①避難上の安全の検証)				定期試験に向けた学習を徹底しておくこと。	
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。※60点以上取得すること (2)授業の中で小テストを3回実施する。 (3)宿題・レポートを数回実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				80%
	小テスト	◎	◎				10%
	宿題・レポート	○	◎				10%
履修上の注意	出席回数が授業回数の2/3に満たない場合は、単位を与えない。						

科目名	図学・建築パース						
科目名(英)	ARCHITECTURAL PERSPECTIVE I						
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	石原達也		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験	デザイン事務所にて 建築パース作成に従事		
対象学科・学年	建築学科(夜間) 1年						
授業概要	建築においてパースは建物の完成予想図を言うが、むしろ設計途中のイメージパースが重要であり、オーナーの希望を具体化し 絵 として表現する事により、より解りやすく表現する方法である。建築における建物の外観・内観を遠近法や図法を使って完成予想図作る方法を学ばせる。						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					建築パースの重要性・必要性を説明することが出来る。	
	○					パースの成り立ち(遠近法・図法)を説明出来る。	
		○				図面を使って室内のフリーハンドイメージパースを作ることが出来る。	
		○				1消点図法・2消点図法を使って内観パースを作れる。	
		○				内観パースに着色し、カラーパースとして完成出来る。	
テキスト・教材 参考図書	超かんたん パースの描き方						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1・2	建築パースの重要性・必要性				課題は次の授業までに終わらせておくこと	
	3・4	内観1消点法・基本・変形					
	5・6	斜め家具の配置					
	7・8	ベッドルームの作成					
	9・10	和室のパース作成					
	11・12	リビングルームの作成					
	13・14	外観2消点法・基本					
	15・16	3階建ビルの外観パースを作成					
	17・18	2階建ビルのパース					
	19・20	2階建住宅のパースを作成 1					
	21・22	2階建住宅のパースを作成 2					
	23・24	切妻住宅の外観パースを作成 1					
	25・26	切妻住宅の外観パースを作成 2					
	27・28	着色1					
29・30	着色2						
評価方法	課題作品の提出、作品の完成度・精度にて評価する。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	課題の提出	○	◎				50%
	作品の完成度・精度		○				50%
履修上の注意	出席回数が授業回数の2/3に満たない場合は、提出状況に関係なく単位を与えない。						